

3-9 大学情報化職員研修会

本研修会は、情報技術を活用した教育改善および人材育成支援、望ましい情報環境や運営組織の在り方など、大学改革に不可欠な課題について、問題解決に向けた取り組みについて可能性を模索する中で業務を点検し、事例紹介、意見交流を通じて職員一人ひとりの資質の向上を目的としている。研修会の企画・運営・実施は、研修運営委員会（委員長：山田 憲男、日本女子大学）を継続設置して対応した。

（1）開催要項の決定と実施準備

プログラムは、全体会と分科会とで構成した。全体会では、社会に求められる人材育成を実現するために、積極的に教育支援や教育の質保証に取り組んでいる大学の学長・副学長より、大学の使命や職員の役割について基調講演を行うこととし、A日程では伊原豊實氏（帝塚山大学副学長）、B日程では松原典宏氏（日本文理大学学長）とした。また、討議の予備知識として、授業改善の方向性について、教員による授業改善調査の結果を下に大学として対応すべき課題、教員の課題などを井端事務局長から解説した。分科会では、業務およびテーマ別の11の分科会を設け、業務の中での教育支援、人材育成支援へのかかわりの可能性を討議の中で模索できるよう事例を織り交ぜ、極力、職員の意識改革を目指すこととし、以下の通りの開催要項を決定した。

平成17年度大学情報化職員研修会開催要項

1. 開催主旨

テーマ：大学の社会的責任とITを活用した教育支援のあり方

大学教育の成果である人材育成が社会から問われている。創造性、即戦力、基礎学力など人間力の低下が指摘され、学生の質保証が取り沙汰されるなど、教育全般に亘り改革が求められており、それには、理事会をはじめ教員・職員による人材育成の取り組みが不可欠であるが、とりわけ職員には、教育支援、人材育成支援の取り組みをコーディネート、マネージメントする能力が要請される。問題解決に向けた取り組みについて可能性を模索する中で業務を点検し、IT活用による教育改善および人材育成支援、望ましい情報環境や運営組織の在り方など、大学改革に不可欠な課題について、事例紹介、意見交流を通じて職員一人ひとりの資質の向上を目指すことを目的に本研修会を開催する。

2. 全体講演

全体会では、上記の趣旨を踏まえ、大学全体で組織的に授業改善、教育の質保証に取り組んでいる大学より、事例を報告いただきながら、大学の使命と職員に寄せられる期待について講演いただく予定である。

〔講師〕

A日程：伊原豊實氏（帝塚山大学副学長）

B日程：松原典宏氏（日本文理大学学長）

3. 研修の進め方

本研修会は、研修の主旨を理解するための全体会（講演、事例解説等）の後、テーマ別の分科会形式に移行します。分科会では、趣旨に沿ってサブテーマの内容を中心に討議を行い、問題解決のための方途を探ります。また、必要に応じて、参加者の中から、あるいは外部関係者を招いて先進的な取り組み事例の紹介を行います。

4. 参加資格

加盟大学教職員：当協会加盟大学・短期大学の職員。一部分科会では教員も対象とします。

賛助会員：本研修会の開催内容に関連する当協会賛助会員企業の方。

5. 開催日程・会場

A日程：10月5日（水）～7日（金）

B日程：10月12日（水）～14日（金）

会場：浜名湖ロイヤルホテル

（〒431-0101静岡県浜松市雄踏町山崎4396-1 TEL. 053-592-2222）

※本年度は合宿研修となります。参加者は全員上記ホテルへ宿泊いただきます。原則としてツインルームとし、部屋割りは当方で割り当てます。

6. 分科会

学内の基幹業務あるいは業務を横断するテーマについて討議と事例研究を行い、問題解決の方法について理解を深めます。※A-5, B-4, B-5分科会では教員も対象とします。

A日程：10月5日～7日

A-1 学生基本情報管理と活用

A-2 財務・会計管理

A-3 教育学術情報

A-4 大学Webサイト分析

A-5 情報化推進組織の管理運営

A-6 ITを利用したコラボレーションシステム

B日程：10月12日～14日

- B-1 学修支援
- B-2 キャリア形成支援
- B-3 人事制度改革とシステム構築
- B-4 教育方法と教育支援
- B-5 教育・研究の情報基盤整備

(2) 開催結果と次年度の計画

参加者は96大学、1短期大学、賛助会員8社の総勢243名であった。開催結果の詳細は、資料編【資料15】を参照されたい。

参加者が減少傾向にあることから、より充実した研修となるよう新たな企画を検討している。一つは、参加者の問題意識を高めるためのプログラムであり、大学が抱える課題や職員の役割などについて、課題意識を高めて討議に臨めるような共通理解の場を設定する。その際、一方向的な説明ではなく、参加者とのコミュニケーションを携帯電話等を使用して、参加者一人ひとりに働きかける企画を検討している。二つには、極めて有益な事例紹介を選定し、分科会を越えて聴取できるよう検討している。三つには、インパクトのあるテーマなど分科会の内容を見直し、再編することとしている。

